

Santo Domingo de Guzmán 2022



親愛なる姉妹の皆さま

すでに状況が許すようになり、保留していた訪問を行っているこの時、私は直属の家の姉妹たちの中において、シノダリティ(ともに歩む教会)をテーマとするシノドスのための準備プロセスに参加するようにとの教会の呼びかけを響かせ、それと同時に、姉妹たちの経験に耳を傾け、私たちの修道会内におけるシノダリティの個人的体験を振り返っています。このプロセスは、私の考えでは、あらゆるレベルで注意深く熟考する必要がある問いを呼び起こします——私たちにとって「ともに歩む」とはどういう意味でしょうか、私たちの修道会と私たちが生きている社会への奉仕において、いかにして交わりの真の霊性を育み、傾聴、対話、そして識別を実践することができるでしょうか。

この文脈で、私たちの父聖ドミニコの生涯を思い起こすことは、彼その人がともに歩む人として輝かしい模範であることから、より意義深いものとなります。彼が「魂の救い」を熱望する教会の人として、教皇フランシスコが強調したシノドスの3つのキーワード、「**交わり、参加、そして宣教**」をいかに生きたかをはっきりと見ることができます。

私たちの父は、その時代の現実から孤立して生きていたわけでもなく、彼の家族の城の快適さに安住していたわけでもなく、また自分中心の夢を追い求めたわけでもありませんでした。彼は幼い頃から、また思春期や青年期にも、仲間や自分の歩む道で出会う貧しい人々と分かち合い、手助けする**共同体的**な人でした。パレンシアでの勉学を終えると、彼は一つの教会で孤立することなく、パレンシア大学の他の教授たちと同じように共同体で生き続けました。従順によってオスマの聖堂参事会に導かれると、修道院の壁の中での共同生活だけでなく、同時に、素朴な人々にカテキズムを教えながらカスティーリャの小さな村々で共同生活を営んでいました。

彼が北ヨーロッパへの旅の間に出会った現実、異端者に対して信仰の真理を守る**宣教者**としての熱意を彼の中に呼び覚ましました。ドミニコは、自分の祖国、文化、言語、習慣を捨て、ただ一つの目的のためにすべてを捨てます。それは、神の言葉がすべての兄弟

姉妹に届くようにということです。主が日々自分の道に置かれたものを一步一步生きていきながら、宣教者としての召命の賜物を発見していったのです。

ドミニコの駆り立てられるような心は彼をあらゆる困難に直面させ、自らが教会の偉大な使命に参加していることを認識して、常に自分の最善を尽くしてそれに応えることができたのです。私たちの父に託された使命は多岐にわたりました。教会で行われていた説教のスタイルを打ち破り、より福音的な方法で説教を始め、異端を捨てた若い姉妹たちを迎え入れてプルイユにドミニコ会観想修道女たちの最初の修道院を作り、教皇の委任により、機能不全の状態にあったすべての共同体をローマで集めました。そして、教会の宣教の使命への参加を確固たるものにするために、彼は修道会を創立し、大胆にも、使徒のスタイルで兄弟を2人ずつ説教に送り、修道院を設立し、当時の大学の中心地で勉強させたのです。

聖ドミニコの間人像についての叙述はたくさんあります。いつくしみに満ちた精神と他者への感受性で際立っていました。喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣くことが自らの義務であると考えていました。彼は誰にでも優しく接し、常に素朴な道を進み、言葉にも行いにも虚構や二枚舌は一切なく、すべての人を彼の心の広大な愛に包み込み、すべての人を愛することですべての人に愛されたのです。

私たちが修道会として「ともに歩み」、教会から託された使命に忠実であるために、父の模範は私たちに何を教えてくれるのでしょうか。私たちは、罪悪感を抱いたり詮索したりするためではなく、改善し補強する必要があるものを見出すために、自らの態度を吟味することから始めるべきかもしれません。私たちの間で、また私たちと異なる人々との間との交わりを働きかけているのでしょうか。参加する道筋や自己表現の機会を提供しているのでしょうか。私たちの態度は宣教を後押ししているのでしょうか。

交わりは、課題であると同時に、私たちの狭さ、不寛容、利己主義、排他性を超越させる恵みでもあります。それは私たちの心を開き、限界にもかかわらず他者を受け入れ、最も小さいものに手を差し伸べ、失われた者を探し求め、主の道に導くことです。私たちの分裂や差別的な態度から抜け出すこと、壁ではなく橋を架けること、癒すこと、傷つけないことです。私たちは、自分の好きな人にだけ親切にするのではなく、私たちの輪に属していない人にも心を開いて配慮し、それぞれの姉妹がありのまま歓迎され愛されていると感じられるようになれば、私たちの間の交わりを促進することになります。そして、それぞれが集合体としての私たち全体の重要な部分であることに気づくのです。私たちの修道会のイメージは、「私」と「あなた」なしには決して完成しません。これを認識していると、私たち一人一人が何か貢献できることがあり、誰も代わりにそれを補うことができないことがわかってい

るので、私たちは自発的に参加するようになります。聴く力を研ぎ澄まし、あえて窓やドアを開けて新しい空気がはいるようにするなら、私たちの共同体への参加が促されます。私たちができるのは、生きてきたことを分かち合うこと、つまり全人類家族のただ中で神の愛を証しすることにほかなりません。これらすべては、私たちが熱意を持って宣教の使命を果たすことにつながります。

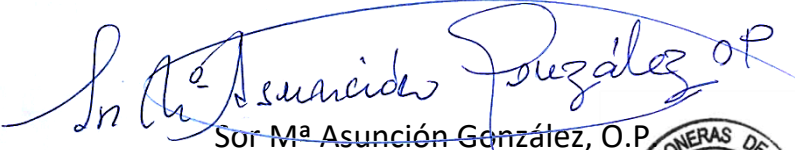
「ともに歩む」ことのすばらしさは、私たち皆が目標を達成できるようお互いに励まし合えることに現れます。それは、立ち止まって聖霊の声と一緒に耳を傾け、時のしるしと一緒に読み解き、与えられた時と場の文脈の中で、私たちのカリスマを形作る能力を伴います。

私たちはシノダリティを何か新しいもののように話しますが、実際には、すでに聖ドミニコが修道会を創立したときに選んだ聖アウグスティヌスの戒律に反映されています——「...神において一つの魂、一つの心を持たなければなりません」。まさにこの言葉は、最初のキリスト教共同体の生き方、行動様式を表しており、教会が現代に蘇らせたいと願っている精神なのです。

私たちの父と私たちの母、ロザリオの聖母の執り成しによって、この道を歩み続ける勇気が私たちのうちに再び活気づけられますように。

私たちの父聖ドミニコの祭日おめでとうございます！

姉妹的抱擁と祈りのうちに


Sor Ma Asunción González, O.P.
Priora General

